



sendaiメディアテークは開館10年を迎えます。

sendaiメディアテーク

〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1

tel : 022-713-4483 fax: 022-713-4482

www.smt.jp

office@smt.city.sendai.jp

sendaiメディアテークは開館10年を迎えます。

10th anniversary sendai mediatheque

プレスリリース vol.2 2010年9月

2

sendaiメディアテーク sendai mediatheque

アートギャラリー、図書館、映像メディアセンター、目や耳の不自由な方への情報提供という4つの機能を融合した複合文化施設。

美術や映像文化の活動拠点であると同時に、すべての人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりを行い、使いこなせるよう、お手伝いしています。

sendaiメディアテーク開館10周年

2001年に開館したsendaiメディアテークは、今年度開館10周年を迎えます。

これまでの10年を振り返りつつ、次の10年の可能性についてみなさんと一緒に考えるさまざまな事業を行います。



せんだいメディアテークは開館 10 年を迎えます。

今年度、せんだいメディアテークは開館 10 周年を迎えます。2001 年 1 月の開館以来、この場所には毎日 3,000 人以上の方々が訪れ、定禅寺通を行き交う人の流れも大きく変わったと言われます。

せんだいメディアテークは、その計画段階から、図書館、市民ギャラリー、映像ライブラリー、目や耳が不自由な方のための情報提供の 4 つの役割をあわせ、つないでいくことで「メディアテーク」という、情報社会に対応した生涯学習のための新しい場を生み出すことを目指してきました。また、この場で活動するみなさんの使いかたや求めていることに応じて、そのありかたを変えていくことのできる場であろうともしてきました。そのようにしてさまざまな新しい活動に取り組んできたこの 10 年間ですが、一方でその間、情報技術の進歩は、私たちをとりまく社会のありようや人々の関係性も大きく変えてきました。これからのメディアテークは、市民の放送局や出版局といった、地域のための情報発信拠点としての役割を具体的に示し、20 年、30 年経っても、ここを利用するみなさんが新しい可能性に出会える場であり続けなければならないと考えています。

そこで、開館 10 周年を迎える今年度、これまでの 10 年をふり振り返りつつ、次の 10 年に私たちのコミュニケーションをもう一度私たちの手にとりもどすため、私たちひとりひとはもちろん、さまざまなレベルのコミュニティやメディアテークを含む機関それぞれが何をすべきか、多くの方々とともに考えていくことができれば幸いです。

せんだいメディアテーク開館 10 周年事業

A 展示&アートプロジェクト「いま、バリアとはなにか」

- 1) 6 階ギャラリーの展覧会：小山田徹×藤井光
- 2) 南のガラス面（ダブルスキン）を使った作品展示：北川貴好
- 3) 葉プロジェクト：港千尋
- 4) 5 番チューブ再開発計画 vol.6 「Depth of Field」：石橋素+真鍋大度
- 5) フォルマント兄弟「せんだいめでいあヲどり制作プロジェクト」
- 6) 光島貴之「音と触覚で生活世界をなぞる」

B トークセッション 「コミュニケーションの未来へ」

- 第 1 部 「伝わらないこと」のおもしろさ
- 第 2 部 「表現すること」のもどかしさ
- 第 3 部 集団の力

C 上映 「ことばをこえて——映像の力」

- 第 1 部 ことばを紡ぐ身体
- 第 2 部 最新／最強のインディペンデント
- 第 3 部 シアター・マッサージ



せんだいメディアテークは開館10年を迎えます。

せんだいメディアテーク

〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1

tel : 022-713-4483 fax: 022-713-4482

www.smt.jp

office@smt.city.sendai.jp

せんだいメディアテーク開館10周年事業 A

展示&アートプロジェクト「いま、バリアとはなにか」

情報技術の進展によって、私たちは時間差のない通信手段を獲得する一方、その技術に身体を適応させられています。合理主義的に進められるコミュニケーションのなかで、私たちは、内省的な深い考察が生み出す時間的な間や表現上の質感を発揮できなくなっているのではないのでしょうか。そして、平滑で無機質に整形された情報は、グローバル化された消費社会の価値観とともに、個人や文化の固有性すら消失させるかのような振る舞いをみせています。現に身体の差異や存在性は、情報技術とは関係なくあるにも拘らず、それがもたらした世界観では、不都合なバリアは解消されてしまったかのようです。2000年以後のこのような状況のなかで、10周年を迎えるせんだいメディアテークでは、情報化とグローバル化の中におけるさまざまなバリア（身体、言語、性差、民族、空間など）をめぐるリアリティを、次代を切り開くための表現として展開していきます。

http://www.smt.jp/anniversary/10th/how_barrier_is/

主催 仙台市市民文化事業団

共催 仙台市教育委員会

助成 芸術文化振興基金、財団法人地域創造、花王芸術・科学財団

企画協力 桂英史（東京藝術大学大学院映像研究科教授）

会期 2010年10月－12月

会場 せんだいメディアテーク



せんだいメディアテークは開館10年を迎えます。

せんだいメディアテーク

〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1

tel : 022-713-4483 fax: 022-713-4482

www.smt.jp

office@smt.city.sendai.jp

◎6 階ギャラリーの展覧会

ー消費社会と均質化を乗り越えるアートの夢ー

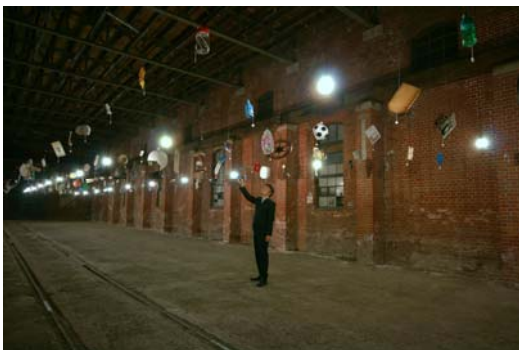
美術作家の小山田徹と藤井光が 1000 m²以上ある空間を使ったインスタレーションを協働で発表します。小山田徹は、世界的に評価の高いパフォーマンスグループ「ダムタイプ」での活動の後、バザールやカフェなどコミュニティのための共有空間の設計・開発を先駆的に行っています。藤井光は、映像メディアを用いながら、資本主義社会の歪みなど現代社会の問題点を深く切り取る表現活動を行っています。この展覧会では、両者が現在におけるバリアについての考察をもとに、仙台で収集した大量の生活品と、現代生活における生への欲望を記録した映像の断片によって、私たちの社会の鏡像的空間を作り出します。

会期 2010年10月23日(土)ー12月26日(日)

10:00ー19:00 (光のページェント点灯後は21時まで延長)

会場 せんだいメディアテーク 6階ギャラリー4200

観覧料 100円 高校生以下無料



小山田徹 浮遊博物館 2009年



藤井光 chapter1 2005年

◎空きスペースを使った作品展示

ーバリアとしてのアート、アートが溶かすバリア、アートが活かす空間ー

メディアテークの館内は目的別に壁面で区切られた空間ではなく、公共空間として様々な目的を持った人が行き来し、情報が交差する場所です。そして新たな出会いが、次の発見と学習につながることを期待されています。このようなメディアテークの空間をより豊かに活性化するために、ギャラリーに止まらず、館内のいろいろな場所にアートの展示を行い、人や芸術への出会いと発見の交差点を増やしていきます。



せんだいメディアテークは開館10年を迎えます。

せんだいメディアテーク

〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1

tel : 022-713-4483 fax: 022-713-4482

www.smt.jp

office@smt.city.sendai.jp

1. 南のガラス面（ダブルスキン）を使った作品展示：北川貴好

透過するメディアテークの建物を梱包するように、南のガラス面に紙を張り巡らせて、巨大な作品に変貌させます。

会期 2010年10月中旬から12月26日（日）

*メディアテーク南面ガラスに展示のため、作品完成・発表は天候次第になります。

会場 せんだいメディアテーク2階から7階の南ガラス面

観覧料 無料



北川貴好 作品プラン 2010年



南側の2重ガラス面（ダブルスキン）

2. 葉プロジェクト：港千尋

書物と読者の間を取り持つ記憶のメディアであり、書物の中に差し入れられるイメージでもあるモノ「葉」を図書館の本のなかに渡り歩かせるプロジェクトです。電子書籍などが普及していく中で、読書の身体性や書物の展示空間でもある図書館について考えます。

会期 2010年10月中旬から12月26日（日）

会場 せんだいメディアテーク3階 市民図書館、7階 美術文化ライブラリー

観覧料 無料

3. 5番チューブとその周辺をつかった作品展示

5番チューブ再開発計画 vol.6 Depth of Field：石橋素+真鍋大度

身の回りの素朴な素材や現象に着目し、それらをコンピュータープログラミングや制御技術を駆使して、新たな体験を生む装置として再構成します。新作「Depth of Field」では、市販のエアガンを使う手法で鑑賞者の像を描き出します。

会期 2010年9月18日（土）から12月26日（日）

会場 せんだいメディアテーク5番チューブ1階部分、1階エスカレーター踊り場

観覧料 無料

*文化庁メディア芸術祭巡回企画展



◎アートプロジェクトー既知の世界から未知の世界への跳躍ー

アーティストと一緒に表現活動を行い、体験することでアートへの理解を深めていくプログラムです。コンピュータを使った音楽表現で世界的にも評価の高いフォルマント兄弟（三輪眞弘と佐近田展康によるユニット）と、視覚にたよらない全盲の美術作家光島貴之が、私たちの社会を取り巻く課題をプロジェクトとして取り上げ、参加者と共にアートとして表現していきます。機械音と人声、伝統の祭りと現代の祭り、視覚芸術と触覚芸術など、異分野の交差によってバリアを照らし、その融和を図っていきます。

1. フォルマント兄弟 せんだいめでいあヲどり制作プロジェクト

フォルマント兄弟と市民の参加者が、仙台の新しい民謡と踊り、そのための衣装やマスコットキャラクターなどを協働で作りだし、発表していくプロジェクトです。

実施期間 5月-12月

<http://www.smt.jp/formant/news/>

<みちのく YOSAKOI 祭りでのヲどり披露>

会期 2010年10月10日(日)

会場 定禅寺通(パレード出場)ほか

観覧料 無料

<記録展示>

会期 2010年11月20日(土)-12月26日(日)

会場 せんだいメディアテーク 7階スタジオほか

観覧料 無料

<フォルマント兄弟トークセッション&パフォーマンス>

会期 2010年12月23日(木・祝)

会場 せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア

観覧料 無料(カフェテーブル席は飲食代必要)



キャラクター高音キンと
せんだいめでいあヲどり友の会
(プロジェクト参加者)

2. 光島貴之 音と触覚で生活世界をなぞる

聴覚や触覚によって世界を認識している「見えない人」の日常を体験するプロジェクトです。音や触覚による「気配」の展示によって、触覚的世界と視覚的世界のパラレルワールドを構成します。

会期 2010年10月23日(土)-12月26日(日)

会場 せんだいメディアテーク 7階スタジオ

観覧料 無料



出展作家

小山田 徹 (KOYAMADA Toru)

1961年鹿児島生まれ。京都市立芸術大学准教授。1984年京都市立芸術大学日本画科在学中に友人たちとパフォーマンスグループ「ダムタイプ」を結成、ダムタイプの活動と並行して90年から、「ウィークエンドカフェ」「コモンカフェ」「祈る人屋台」「カラス板屋」などさまざまな共有空間の開発を行っている。



藤井 光 (FUJII Hikaru)

1976年東京生まれ。パリ第8大学美学・芸術第三博士課程 DEA 卒。1995年渡仏。美術館、路上、インターネット、裁判所、スクウォットなどの現場で映像メディアの可能性を模索しながら現代日本の社会政治状況を直截的に表現する。また「文房具としてのメディア」をコンセプトに映像制作ワークショップを通し映像メディアの民主化に努めている。

北川 貴好 (KITAGAWA Takayoshi)

1974年大阪生まれ。1999年武蔵野美術大学建築学科卒業。1995年から環境や建物自体に手を加え空間そのものを新しい風景へと変換する作品を制作している。2000年、2002年、2006年取手アートプロジェクト、2008年黄金町バザール、2009年水と土の芸術祭、2010年愛知トリエンナーレなどに参加。

港 千尋 (MINATO Chihiro)

1960年生まれ。多摩美術大学美術学部教授。早稲田大学政治経済学部政治学科卒業後、パリを拠点に「群衆」「移動」などをテーマに写真家・写真評論家として活動。『記憶―「創造」と「想起」の力』(講談社)で1997年サントリー学芸賞受賞。2006年第31回伊奈信男賞受賞。2007年ヴェネチア・ビエンナーレ日本館コミッショナー。近著『書物の変―グーグルベルグの時代』(せりか書房)

石橋 素 (ISHIBASHI Motoi)

1975年生まれ。東京工業大学制御システム工学科卒業。IAMAS 卒業。テクノロジーを駆使した新しい遊びとプロトコルをテーマにインターフェイスデザインやデバイスの設計開発を行う。2006年、株式会社DGNを設立し、ファッションブランドの店舗や科学館等における展示システムの企画・制作も行う。ハッカーズスペース“4nchor5la6” (アンカーズラボ) ディレクター。

真鍋 大度 (MANABE Daito)

1976 年生まれ。東京理科大学卒業。IAMAS 卒業。コンピュータープログラミングによる音響・照明・映像のデザインと動作制御で、音楽家、演出家、ダンサーなどとのコラボレーションを数多く行う。近年、顔面を音楽のヴィジュアルライザーとして扱った Youtube の実験映像がギーク系ブログで話題になり 1 ヶ月足らずで 100 万ビューを達成。ハッカーズスペース“4nchor5la6”（アンカーズラボ）共同主宰。

フォルマント兄弟 (Formant Brothers)



左から兄の三輪真弘、弟の佐近田展康

三輪 真弘 (MIWA Masahiro)

1958 年東京生まれ。作曲家。情報科学芸術大学院大学 (IAMAS) 教授。1978 年渡独。国立ベルリン芸術大学、国立ロベルト・シューマン音楽大学で学ぶ。近年は、2004 年『村松ギヤ・エンジンによるポレロ』で芥川作曲賞、2007 年『逆シミュレーション音楽』がリアルスエレクトロニカ、デジタル・ミュージック部門でグランプリなど受賞多数。コンピュータ歌唱ユニット「フォルマント兄弟」の兄。

佐近田 展康 (SAKONDA Nobuyasu)

1961 年神戸生まれ。音楽家、サウンド・メディアアーティスト、メディア理論研究。名古屋学芸大学准教授。独自に開発したリアルタイム合成の声による機械歌唱パフォーマンスや作曲作品を多数発表。他に著書『Max の教科書』、CD『時計仕掛けのエルメス』などがある。近年はメディアアートの理論的基礎として機械の存在論を研究。コンピュータ歌唱ユニット「フォルマント兄弟」の弟。

光島 貴之 (MITSUSHIMA Takayuki)

1954 年京都生まれ。10 才ごろ失明。1995 年カッティングシートやラインテープを用いた独自のスタイルで「触る絵画」の制作を開始。見えていたころの記憶をたどりながら色を選び、何気ない日常の中から触る世界のおもしろさを表現する。国内外の美術館・ギャラリーでの展覧会や、触覚に注目したワークショップなど多数開催し、近年は音の作家とのコラボレーションも試みている。





せんだいメディアテークは開館10年を迎えます。

せんだいメディアテーク

〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1

tel : 022-713-4483 fax: 022-713-4482

www.smt.jp

office@smt.city.sendai.jp

せんだいメディアテーク開館 10 周年事業 B

トークセッション「コミュニケーションの未来へ」

メディアテーク開館からの 10 年は、情報技術革新の 10 年でもあり、その変化は私たちを取り巻く環境、経済や都市はもちろん、知や文化のありかたさえも大きく変えようとしています。特に、その変化に伴う「コミュニケーション」を巡る問題は、社会問題のさまざまな側面で指摘されています。身のまわりに溢れかえる情報の中で、私たちが感じるコミュニケーションの困難さ、あるいは過剰さについて、各分野の一線で活躍している方をゲストに迎えてディスカッションを重ね、来るべき 10 年を見据え、現代におけるコミュニケーションの意味について再考します。

日時 第 1 部 「伝わらないこと」のおもしろさ

10 月 24 日 (日) 14:00-

第 2 部 「表現すること」のもどかしさ

11 月 21 日 (日)

第 3 部 集団の力

12 月 19 日 (日)

*全 3 回

会場 せんだいメディアテーク 1 階オープンスクエア

入場 一律 500 円

定員 各回 200 名 (要事前申込、先着順) 10 月分は 10 月 6 日 (水) 10:00-受付開始

http://www.smt.jp/anniversary/10th/future_communication/



ゲスト

毛利 嘉孝 (Mouri Yoshitaka)



1963 年生まれ。東京藝術大学大学院準教授、専門は社会学、文化研究、メディア研究。メディアや都市大衆文化、現代美術、社会運動などの広く批評活動を行っている。京都大学卒。ロンドン大学で MA と Ph.D.取得。九州大学助手、助教授を経た後現職。主著に『ストリートの思想』(NHK 出版)、『はじめての DiY 』(ブルース・インターアクションズ)『ポピュラー音楽と資本主義』(せりか書房)『文化=政治』(月曜社)など。

ピーター・バラカン (Peter Barakan)



1951 年ロンドン生まれ。1974 年音楽出版社の著作権関係の業務に就くため来日。現在ラジオ、テレビ番組出演中心の活動。インターFM「バラカン・モーニング」、NHK-FM「ウィークエンド・サンシャイン」、東京FM「ライフスタイル・ミュージアム」、NHK World (国際放送)「ビギン・ジャパノロジー」、TBS ニュースバード「CBS 60 ミニッツ」に出演中。

ほか予定ゲスト

いとうせいこう (作家・クリエイター)

白石草 (NPO 法人 Our Planet-TV 代表)

諏訪敦彦 (映画監督)

田門浩 (弁護士)

津田大介 (メディアジャーナリスト)

寺本弘伸 (NPO 法人日本災害救援ボランティアネットワーク常勤理事)

八田真行 (知的財産研究所特別研究員)

レオニー・バウマン (NGBK ディレクター/ベルリン)



せんだいメディアテークは開館10年を迎えます。

せんだいメディアテーク

〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1

tel : 022-713-4483 fax: 022-713-4482

www.smt.jp

office@smt.city.sendai.jp

せんだいメディアテーク開館10周年事業 C

上映「ことばをこえて——映像の力」

「映像の世紀」と詠われた20世紀の終わりから10年、映画やテレビ、インターネットや携帯されるメディアにいたるまで、さまざまな形で映像は拡大と変化をとげ、時に言葉以上に私たちのコミュニケーションを支えるものになっています。私たちは映像で何を、どのように語り、伝えるのか、その力を探求する作品や、ユニークな映像文法の試み、ゲストとの対話を通じて、今日の映像表現に関わる視点をご紹介します。

会期 第1部 ことばを紡ぐ身体

10月23日(土)ー10月26日(火)

第2部 最新/最強のインディペンデント

11月20日(土)ー11月23日(火・祝)

第3部 シアター・マッサージ

12月18日(土)ー12月23日(木・祝)

会場 せんだいメディアテーク 7階スタジオシアター

入場 1プログラム500円 (一部、前売/特別料金プログラムあり)

定員 各回180名

ほか 会期中、午前のプログラムには託児が付きまます。(要事前申込)

http://www.smt.jp/anniversary/10th/beyond_words/

第1部 ことばを紡ぐ身体

私たちが映像を通じて訴える人間の姿を見つめるとき、そこで受け止めている言葉以外のものは何か。一人ひとりの人間が“物語る”姿をとらえた作品たちによって、私たちが受けとめているはずの言葉と、その人の姿から立ち上がってくる言葉にならない何か、そしてその向こうにある世界を見つめ直します。

(プログラム)

・『死なない子供、荒川修作』(監督:山岡信貴/2010年/80分)

今年5月に亡くなった美術家・建築家の荒川修作がつくった「三鷹養老天命住宅」に住む人々と生前の荒川を撮った作品。

・『島の色 静かな声』(監督:茂木綾子/2008年/75分)

沖縄・石垣島で染織を営む石垣昭子とその夫・金星の、自然とともに暮らす姿を描いた作品。

*23日の上映には、監督で写真家でもある茂木綾子氏が来場。また、音声解説・日本語字



幕つき上映。

そのほか

- ・『Winter Soldier ベトナム帰還兵の告白』(1972年/95分)
- ・『包囲 デモクラシーとネオリベラリズムの罠』
(監督：リチャール・ブルイエット/2009年/160分)
- ・『鳳鳴 (フォンミン) ——中国の記憶』(監督：王兵/2007年/183分)
- ・『The Anchorage』
(監督：カーティス・ウィンター、アンダース・エドストローム/2009年/87分)

第2部 最新/最強のインディペンデント

映像による自己表現が個人のものになる時代。しかし一方で、「映画」は今なお資本と規模に縛られることも多いなか、「映画業界」「映画産業」そして「映画文化」は模索しながらも新しい作品を作り出しています。若手映画作家の登竜門として、また近年では海外の映画祭で評価される作家を輩出し続けるぴあフィルムフェスティバルと共同で、最新の自主映画、そしてまた、宮城県出身で1960年代から今も旺盛に映画を作り続ける若松孝二監督を幻の作品を特集します。

(プログラム)

- ・『壁の中の秘事』(監督：若松孝二/1965年)

『キャタピラー』でベルリン国際映画祭銀熊賞(最優秀女優賞)を受賞した若松監督の、ソフト化されていない幻の作品。

- ・『家族X』(監督：吉田光希/2010年)

ぴあフィルムフェスティバルから発見され、はじめてプロのスタッフと組む吉田光希監督が、新興住宅地に暮らす家族を描いた。南果歩、田口トモロヲらが出演。

そのほか

若松孝二監督の作品、ぴあフィルムフェスティバル2010入選作品を上映。

また、ワークショップを予定。

第3部 シアター・マッサージ

映画館や劇場といわれる場は、ある建築空間であると同時に、社会的な役割やシステムのようなものであります。多様な変化を見せつつ、いまだなんらかの装置(プロジェクターやスクリーンなど)を伴う表現である映像は、それを体験する観客とともに、空間でありシステムである場とあらたな関わりが持てるのか。映像装置であり、集合的な体験の場としてのシアターの可能性をさぐります。

(プログラム)

- ・『KIKOE』(監督：岩井主税/2009年) 上映+大友良英ライブパフォーマンス/配信
即興、ジャズ、映画音楽等で世界的に活躍する音楽家・大友良英のドキュメンタリー作品。



せんだいメディアテークは開館10年を迎えます。

せんだいメディアテーク

〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1

tel : 022-713-4483 fax: 022-713-4482

www.smt.jp

office@smt.city.sendai.jp

このせんだいメディアテークでのライブの様子も収められている。当日は、大友良英氏と岩井主税氏を迎えて、ライブパフォーマンスと映像配信を予定。

・『サドのための絶叫』（監督：ギー・ドゥボール／1952年）

「スペクタクルの社会」の著者ギー・ドゥボールによる映画。映画、作品と観客の関係を解体する、今日においても野心的な作品。

そのほか

Shimura brosら映像を使った作家による映像音響作品・パフォーマンス。

10 月上映予定作品



『ウィンター・ソルジャー
ーベトナム帰還兵の告白』



『島の色 静かな声』

*日本語字幕・音声解説つきでも上映

ゲスト

茂木 綾子 (MOGI Ayako) (『島の色 静かな声』監督)

1969年北海道生まれ。東京藝術大学デザイン科を経て、1997年よりミュンヘン、2005年よりスイスのラコルビエールに暮らし、2006年にはジュパジュカンパニーとしてアートプロジェクト「Laboratoire Village Nomade」の企画運営を務める。2009年より淡路島へ移住し、廃校を利用したアーティストコミュニティ「ノマド村」を立ち上げ、現在活動中。1992年にキヤノン写真新世紀で荒木惟経賞受賞。2007年童話写真集「どこにいるのシュヌツフェル？」四月社より出版。2009年よりギャラリーMISAKO&ROSENに所属。2010年雑誌コヨーテ誌上にて「caravan lost」を連載中。映像・映画作品に『IN THE COUCH』（1996年）、『風にきく』（2002年）、『島の色静かな声』（2009年）など。

ゲストトーク

10月23日（土）11:00『島の色 静かな声』上映後



せんだいメディアテークは開館10年を迎えます。

せんだいメディアテーク

〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1

tel : 022-713-4483 fax: 022-713-4482

www.smt.jp

office@smt.city.sendai.jp

* 上記内容から変更のある場合がございますので予めご了承ください。

詳細に関しては、せんだいメディアテーク企画・活動支援室へお問い合わせください。

せんだいメディアテーク開館10周年事業ホームページ

<http://www.smt.jp/anniversary/10th/>

せんだいメディアテーク 企画・活動支援室

〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1

tel : 022-713-4483 fax: 022-713-4482

www.smt.jp

office@smt.city.sendai.jp

担当

A 展示&アートプロジェクト「いま、バリアとはなにか」 清水建人、清水有、薄井真矢

B トークセッション「コミュニケーションの未来へ」 林朋子

C 上映「ことばをこえて——映像の力」 小川直人

広報 亘理よし子



沿革

- 2000年 3月 せんだいメディアテーク条例制定
- 8月 建築竣工・施設引き渡し
- 9月 仙台市民ギャラリー・仙台市視聴覚教材センター・仙台市民図書館閉館
- 12月 仙台市民図書館移転
- 2001年 1月 せんだいメディアテーク・仙台市民図書館開館
- 1月 開館記念イベント「メッセージ/ことばの扉をひらく」開催
- 一3月
- 11月 2001年度グッドデザイン賞 グッドデザイン大賞受賞
- 従来の建築のもつバリアを解き放つ空間を作ることに重きを置き、物理的なバリアだけではなく、あらゆる意味でのバリアを取り除く空間づくり、運営システムを目指されている。これまでの多くの公共事業の枠組みを乗り越え、人と人、市民と行政、都市と人との新しい関係性を創造した新しいタイプの複合文化施設の実現として評価された。
- せんだいアートアニュアル 2001 開催（～2005年まで開催）
- 年1回のアートフェスティバルとして美術・映像などジャンルを問わず作品を公募。
- びあフィルムフェスティバル開催（～継続）
- 日本最大の映画作家の登竜門。仙台会場で開催。
- ショートピース！仙台短篇映画祭 2001 開催（～継続）
- 国内外の短篇映画を集め、その魅力を紹介する仙台独自の映画祭。
- 2002年 ○smt オープンカフェ開催（～継続）
- 定禅寺通で繰り広げられるお祭りなどと連携し、1階の大空間を、まちとつながる場に仕立ててイベントを展開。
- 音声解説・日本語字幕・託児つき映画上映開催（～継続）
- 目や耳の不自由な方、小さなお子さんをお持ちの方も一緒に楽しめる上映会。
- 2003年 ○卒業設計日本一決定戦 2003 開催（～継続）
- 全国から応募された学生の卒業設計を一堂に集め、公開審査によって日本一を決める。
- 2004年 4月 仙台ひと・まち交流財団を指定管理者として指定
- トークセッション「共有と連携のデザイン」開催
- さまざまな価値観や経験を持った人が場を共有するためのデザインについて考える。
- 2005年 ○仙台芸術遊泳 2005 開催（～隔年で継続）
- 仙台圏の美術館、博物館、ギャラリー、大学等が相互に連携して地域の視覚芸術振興に取り組む仙台視覚芸術振興ネットワーク（SCAN Sendai）



Contemporary Art Network) によるアートプロジェクト。

- 2006 年 ○青葉緑日開催（～継続）
子どもから大人まで体験しながらアートを楽しむことができるフェスティバル。
- 2007 年 4 月 仙台ひと・まち交流財団から業務移管された仙台市市民文化事業団を指定管理者として指定（指定管理期間：平成 19（2007）～平成 23（2011）年度）
○伊東豊雄 建築 | 新しいリアル開催
メディアテークから始まった伊東豊雄氏の、建築への新しい挑戦の軌跡を代表的な作品の模型や展示パネル、映像で紹介。
- 2008 年 ○としょかん・メディアテークフェスティバル開催（～継続）
市民図書館開設 45 周年から始まった、仙台市立図書館とメディアテークの連携事業。
- 2008 年 3 月 館内機能の見直しによるフロアレイアウトの一部を変更
○5 番チューブ再開発計画開催（～継続）
各階へのアクセス路としての 5 番チューブを映像や音響による表現で演出し有効に活用していくシリーズ企画。
○goban tube cafe 開催（～継続）
知的創造を行うための能動的な情報交換や人的交流を行う場。
公募によりさまざまな団体がユニークなカフェを開催。
- 2009 年 ○メディアテーク機関誌「ミルフィユ」刊行
- 2010 年 ○開館 10 周年事業開催
○ほかに継続事業として、定禅寺通の市民活動、図書館、市民センターや学校との連携事業、地域映像アーカイブ事業、情報活用支援事業、バリアフリー事業、スタジオ活用支援事業、スタジオ情報発信事業などを行っている。
- 2011 年 1 月 せんだいメディアテーク開館 10 周年



理念・サービス

せんだいメディアテークは、美術や映像文化の活動拠点であると同時に、すべての人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりを行い、使いこなせるようにお手伝いする公共施設です。そのために次のような理念に基づいたサービスとプログラムを用意しています。

理念

最先端の知と文化を提供(サービス)

利用者の需要にフレキシブルに対応します。

端末(ターミナル)ではなく節点(ノード)へ

ネットワークの利点を最大限に活用します。

あらゆる障壁(バリア)からの自由

健常者と障害者、利用者と運営者、言語や文化などの障壁を乗り越えます。

サービス

ギャラリーやシアターなど、表現の空間の提供

美術作品・映像作品の発表や鑑賞

スタジオやワークショップなど、活動の空間の提供

- メディアを活用した生涯学習や、文化的な活動
- 情報活用支援、ボランティア支援(目や耳の不自由な方々の情報技術活用、ボランティアの活動支援)などの活動
- 映像・デジタルコンテンツの創造やメディアに関するワークショップ活動

最新の知識や情報の提供

- 仙台市民図書館
- 美術文化・映像文化の調査研究と美術文化ライブラリー・映像音響ライブラリー
- 目や耳の不自由な方のライブラリー
- 視聴覚教材のライブラリー

だれもが情報を収集し、蓄積し、編集し、発信のできる環境の提供



せんだいメディアテークは開館10年を迎えます。

せんだいメディアテーク

〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1

tel : 022-713-3171 fax: 022-713-4482

www.smt.jp

office@smt.city.sendai.jp

プログラム

- 美術・映像・メディアに関する展覧会や上映会、ワークショップ
- 障害のある方を含むあらゆる人がメディアを自由に活用できるようにするための教育普及やボランティア活動の支援
- 多くの方と連携して進める情報収集とデジタルアーカイブ化
- 図書館やさまざまな外部機関と連携する事業の開発



施設概要

- 規模** 地下2階、地上7階＋屋上階
敷地面積 3,948.72 m² 建築面積 2,933.12 m² 延床面積 21,682.15 m²
- 構造** 鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造
- 工期** 1997年12月17日－2000年8月10日
- 建設費** 約130億円
- 設計** 株式会社伊東豊雄建築設計事務所
- 開館** 2001年1月26日
- 休館日** 年末年始（12月29日～1月3日）、保守点検日 毎月第4木曜日

主な施設内容

- 7階 スタジオ、スタジオシアター、美術文化ライブラリー、会議室
受付相談カウンター
- 6階 ギャラリー4200
- 5階 ギャラリー3300
- 3階・4階 仙台市市民図書館
- 2階 映像音響ライブラリー、目や耳の不自由な方の相談カウンター、
新着新聞・雑誌、児童書、グループ閲覧室、会議室、託児室
- 1階 オープンスクエア、カフェ、ショップ、案内カウンター
- 地下1階 駐車場、文庫書庫
- 地下2階 閉架書庫、収蔵庫、機械室
- 運営費** 指定管理料及び補助金等 計606,409,000円（平成22年度予算）※除財団負担

組織 ※仙台市市民図書館は市直営

所管 仙台市教育委員会生涯学習部生涯学習課

指定管理者 財団法人仙台市市民文化事業団

職員構成 館長（副理事長兼務）－副館長－管理係長－管理係（9名）
－企画・活動支援室長－企画・活動支援室（11名）
－情報資料係長－情報資料係（12名）

指定管理期間 2007年4月1日から2012年3月31日

仙台市市民文化事業団について

財団法人仙台市市民文化事業団は、1986年10月に仙台市によって設立された財団法人で、豊かな魅力ある仙台の市民文化創造に寄与することを目的に、芸術文化の振興に資する事業、郷土の歴史文化に関する事業、生涯学習を支援する事業を行っています。